



3月30日(日)の「第10回小笠原流流鏑馬」に行くこぼお〜。
三柱神社境内のきれいな桜を見るのが楽しみこぼお〜

柳川市マスコットキャラクター「こっぽりー」



白熱した試合を繰り広げた少年剣士

剣士たちがつばぜり合いを演じた

第31回柳川防災少年剣道大会

市民体育館で3月2日、第31回柳川防災少年剣道大会が行われました。同大会には、市内の小学生と中学生のチーム合わせて24チーム、120人が出場。少年剣士たちは、熱のこもった試合を繰り広げました。結果は次のとおり。【中学生の部】▷優勝=三橋中A▷準優勝=柳城中A▷3位=三橋中B【小学生の部】▷優勝=藤吉道場A▷準優勝=大和少年剣道クラブA▷3位=中山道場、二ッ河道場A

見事なソプラノが響き渡る

カルチャラル柳川ふれあい文化事業

身近に一流の芸術文化を親しんでもらおうと2月23日、カルチャラル柳川ふれあい文化事業が市民会館で開催されました。今年、ソプラノ歌手の森麻季さんを迎えて演奏会を開催。森さんは国際コンクールで受賞歴があり、テレビドラマのテーマソングを歌うなど、日本を代表する歌手です。オペラで歌われる曲や、北原白秋と山田耕筰の「この道」など15曲を熱唱した森さんの歌声に、約800人の観客が聞き惚れました。



詰めかけた観客を魅了した森麻季さん(右)



きねを持ってもちつきを楽しむ親子

市民のひらば

身近な話題などお知らせください!
情報をお待ちしています

春の日差しの下でおもちをぺったん

恵美須ひな小路でもちつき楽しむ

柳川雛祭り・さげもんめぐり期間中に、恵美須町などの裏路地で催される「恵美須ひな小路」が、3月1日から始まりました。イベントの2日目は、4年ほど前から柳川商工会議所の観光対策委員会が行っているもちつきが、西方寺境内で開催。同委員会の会員らが、準備した60kgのもち米をきねとうすを使っておもちにしました。中には親子で協力してもちをつくる姿も。ついたおもちは、ぜんざいやあんこもちとして振る舞われ、訪れた地域住民や観光客が舌鼓を打ちました。

満開の梅の中を300人がダッシュ

第21回梅の香マラソン大会

七ツ家の梅の木街道沿いを走る「梅の香マラソン大会」が3月2日、JA柳川カントリーエレベーター前を発着に行われました。同大会には、昭代校区の小学生250人と中学生や一般50人が参加。小学生低学年は1.6km、高学年は2.2km、中学と一般は2.8kmを走りました。前日の雨から一転して青空が広がり、寒さもやわらいで絶好のマラソン日和。満開を迎えた梅の木街道沿いには、地域の人が「がんばれ」「もう少しでゴール」などと参加者に声援を送っていました。



ピストルの音とともに勢いよくスタートする児童

掘割での安全と無事故を祈る

川下りの安全願い お堀開き

春の本格的な観光シーズンを迎えた3月1日、川下りコースの掘割で「水郷柳川お堀開き」がありました。これは、1年間の掘割での安全と無事故を願うもの。小雨が降る中、柳川古文書館近くの掘割に設置された水上ステージで神事が行われ、市内の観光事業者など約50人が出席しました。神事後、一向はどんこ舟に分乗。神官が乗ったどんこ舟を先頭に、掘割を清めながら、新町水門から日吉神社まで約2kmのコースをゆっくりとパレードしました。



どんこ舟の上から掘割の安全を願った

俳句

今月の入選作品・課題「当季雑詠」

応募総数110句

年とらずいつもきれいなひな人形
おうな等が赤子をあやす雛まつり
じれつたい花の名忘れ犬ふぐり

小柳エツ子(中島)
中原由美(新船津町)
梅崎三和子(田脇)

踊り子のスカートシヤコバの春の色
主なき古民家の梅咲きはこり
蔵びらき試飲楽しみ今日も行く
青空に映えてまぶしき八重樫
種いもの芽ぶきて農夫鍬をとる
遊歩道右や左に梅香る
願い込め母の手縫いの雛人形
春めくや腰を伸ばして伊勢参り
余寒なお厳しきものや老の日々
春めいて心も足も外に向く
かがよひてたたむ波音春隣
城下町聲を尽くして雛祭り
とび梅は都をしのび咲ききりそう
辻堂に拜む人あり沈丁花
赤もよし白もよしかな梅の花
有る限り人形飾り雛祭
梅街道花のにおいに誘われて

黒田和代(吉富町)
藤吉トシ子(佃町)
武藤博文(上宮永町)
古賀悦子(西蒲池)
境 幸代(西浜武)
萩尾法子(七ツ家)
古賀治美(南浜武)
田中位緒枝(豊原)
古賀俊郎(新外町)
江崎久美子(西浜武)
古賀幸子(横山町)
森 フチエ(弥四郎町)
徳永智有(徳益)
坂田信幸(鷹ノ尾)
大橋弘茂(百町)
谷 祥子(柳町)
井口まり子(間)

◆選者の句
汲水場に飾りし雛に舟の着く
鬼郎

【句評】今回をもって選者を辞することになりましたので、特選を3句といたしました。1句目の発想の面白さ、2句目のにぎやかさのとらえ方、3句目の苦笑の表情がよみとれるところがひかれました。5年足らずの間でしたが、やはり句づくりは、自然から授かるものだと言った虚子先生の教えを、今一度思い出す結果となりました。

◆選者の句
汲水場に飾りし雛に舟の着く
鬼郎

俳句を募集しています。選句者は4月から綿貫博さん。4月の課題は「長閑な当季雑詠」です。入選作品は4月15日号に掲載します。

●応募方法 俳句と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報広聴係(☎77・8425、FAX 74・5520)へ、3月28日(※必着)までにお送りください。